敦賀美浜 ふるさと紀行

# 赤崎獅子舞

## 江戸時代から伝わる優雅な獅子舞

### 赤崎地区に江戸時代から伝わる秋季例祭の獅子舞

敦賀湾東岸にある敦賀市赤崎地区では、八幡神社の秋季例祭で獅子舞が奉納されます。その起源は定かではありませんが、かつて使用されていた獅子頭を納めた獅子宮（神楽）に文久元年（1861）と記されていたことから、江戸時代末期から行われていたと推定されています。毎年9月15日に行われていましたが、祝日法の改正にあわせて、現在では敬老の日の前日（日曜日）に行われています。

獅子舞を奉納するのは、赤崎地区住民による赤崎獅子舞奉賛会です。かつては青年によって奉納されていましたが、少子高齢化の影響で年齢が引き上げられ、現在は20～50代の男性18名が伝統行事を受け継いでおり、今日まで毎年欠かすことなく続けています。

祭礼当日は朝7時から57軒もの集落の家々を回り、舞や笛・太鼓を披露します。

### 玉が転がるような流麗な舞、見事な早変わりは圧巻

祭礼当日は、早朝から獅子・飾り等の準備が行われ、集落の家々を回ります。夕刻が近づくと、舞手たちは神楽を担いで八幡神社へと練り歩きます。これを「神楽の渡り」といい、道中では笛や太鼓とともに渡りの音頭が歌われます。

眠っている獅子のまわりで天狗や猿などが踊る「寝の舞」。着物は赤崎地区の女性のみなさんによる手作りです。

八幡神社に到着すると、参拝・挨拶をし、いよいよ舞が奉納されます。赤崎の獅子舞は雌獅子で、玉が転がるような優雅さから玉獅子とも称されています。五穀豊穣・悪疫退散を祈る「鈴の舞」から始まり、獅子が好物の蟹を食べる「蟹拾いの舞」や、獅子が満腹になって眠っている「寝の舞」などさまざまな舞が披露され、目を覚ました獅子が獅子頭を高く上げて舞い踊る「高山の舞」で最高潮となり、クライマックスを迎えます。

舞い終わるまで1時間半にも及ぶ長丁場ですが、場面ごとに演じ分けられる華麗な舞は見応え満点です。間に休憩を挟むことなく演じられるので、演者は気づかれないように獅子の着物の中にもぐり込むなど見事な早変わりも圧巻です。流麗な舞を踊りこなすには技量が必要で、習得するまでには数年掛かるといわれます。特に獅子舞は2人1組で舞うため、演者同士のパートナーシップも大切になります。奉賛会のメンバーは祭礼が近づくと練習を重ね、呼吸を合わせて本番に臨みます。

クライマックスの「高山の舞」。獅子舞の舞手が2人から3人になり、肩車で獅子頭を高く舞い上げます。

舞い終わるまで約1時間半。夕刻から始まった舞も終盤になると日が落ち、秋の宵に包まれます。

奉賛会の会長を務める宮下浩一さんは「毎年継続していくことは大変ですが、獅子舞を通じて地区の結束力が生まれています」と話します。奉賛会の東山雅紀さんも「獅子舞が披露され、皆からの拍手をもらうとうれしいですね」と笑顔を見せます。

伝統の祭礼は、地域の有志たちの手でしっかりと受け継がれています。

**赤崎獅子舞**
開催日時／敬老の日前日
開催場所／敦賀市赤崎地区八幡神社

発行所■日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部＝〒914-8585 敦賀市木崎65号20番
☎0770（23）3021 ホームページ http://www.jaea.go.jp（平成29年10月発行）